

中学校総合的な学習の時間研究部

I 研究主題

探究的な学習を通じた総合的な学習の時間の授業づくり

II 主題設定の理由

総合的な学習の時間は、これからの教育のあり方として、「ゆとりの中で『生きる力』をはぐくむ」との方向性を示した平成8年7月の中央教育審議会で創設が提言されたものである。ここでは、「『生きる力』が全人的な力であるということ踏まえ、横断的・総合的な指導を一層推進しうるような新たな手立てを講じて、豊かに学習活動を展開していくことが極めて有効であると考えられる」として「一定のまとまった時間を設けて横断的・総合的な指導を行うこと」が提言され、総合的な学習の時間は、平成10年の学習指導要領の改訂で教育課程に位置づけられた。創設当時、各学校で様々な取り組みが行われ、様々な指導法の工夫改善が行われてきた。

しかし、実施にあたっては、生徒にどのような力をつけるのかが明確でなかったり、必要な力がついたのかについての検証や評価が十分に行われていなかったりといった課題も見られた。また、折から学力低下の問題が大きく取り上げられ、教科を中心とした基礎基本の確実な定着が課題となると、総合的な学習の時間の研究は次第に少なくなっていた。

このような中、平成20年学習指導要領が告示され、総合的な学習の時間は、時数こそ削減されたものの教育課程上の「存在」と「位置づけ」、及び「特質」と「役割」が明確となった。これは、これからの知識基盤社会で『生きる力』を育むためには、教科等で身に付けた力をさらに活用し、思考力・判断力・表現力を高めるために総合的な学習の時間が重要であることを意味している。

これまで総合的な学習の時間においては、①学習内容が明確でなく、体験や調べたことを発表するだけで終わる傾向がある②特別活動と混同されて実践している③補充学習のような専ら特定の教科の知識・技能の習得を図る教育が行われているなどの課題が指摘されている。総合的な学習の充実のためには、このような課題の解決を図ることが重要である。

そこで本研究では、総合的な学習の時間の目標を踏まえ、生徒にどのような力をつけたのかを明確にするとともに、探究的な学習を通じた授業の展開について研究を行うこととした。

III 研究の方法及び内容

1 目標の改訂

今回の学習指導要領の改訂で、これまでの総合的な学習の時間の目標に「探究的な学習」と「協同的」の文言が加わった。「探究的な学習」については、総合的な学習の時間の学習の在り方を示すものであり、探究的な学習を通すことが求められているといえる。学習の過程が探究的になっている必要があるのである。

また、「協同的」は学習に取り組む態度に加えられた。これは、他者と協力しながら身近な地域社会の課題の解決に主体的に参画し、その発展に貢献しようとする態度を育むことが必要とされたためである。

このようなことから、総合的な学習の時間は探究的な学習を進める中で、他者と積極

的にかかわりながら協同的に学習することが必要である。

「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成20年9月」では、探究的な学習について次のように書かれている。

(1) 総合的な学習の時間における探究的な学習の過程

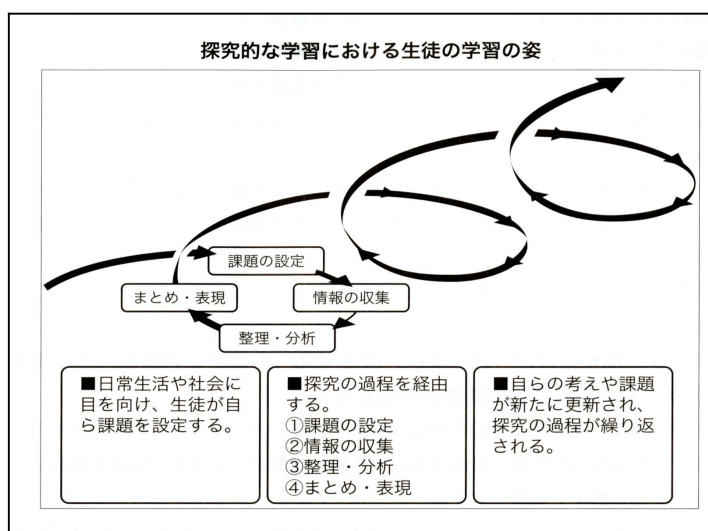
生徒が、

- ① 日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つける<課題の設定>
- ② 次に、そこにある具体的な問題について情報を収集する<情報の収集>
- ③ そして、その情報を整理・分析したり、知識や技能に結びつけたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組む<整理・分析>
- ④ さらに、明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見つけ、更なる問題解決を始める<まとめ・表現>

というような学習活動を発展的に繰り返していくこと

(2) 探究的な学習における生徒の学習の姿

- ① 事象をとらえる感性や問題意識が揺さぶられて、学習活動への取り組みが真剣になる
- ② 身に付けた知識・技能を活用し、その有用性を実感する
- ③ 見方が広がったことを喜び、更なる学習への意欲を高める
- ④ 概念が具体性を増して理解が深まる
- ⑤ 学んだことを自己と結び付けて、自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりするなどの生徒の姿を見出すことができる。



2 探究的な学習を通じた総合的な学習の時間を展開するための工夫

中学校では、学年全体で総合的な学習の時間に取り組むことが多い現状がある。また、時間割の入れ替えなどが難しいことから、現在の指導計画を生かしながら、探究的な学習となるような計画を考えていくこととした。今回の実践では、「小中交流会」と「職場体験」を中心の体験として取り上げた。

実践に当たり、次のようなことについて検討した。

(1) 単元で目指す生徒像を明らかにする

- ・ 「小中交流会」では、自分たちの学校のよさを知り、内容を4月に入学する小学生に伝えることを通して、最上級生としての自覚を深めさせたい。学習方法に関すること

自分たちの学校に関心を持ち、情報収集活動を行い、情報を分析し、学校のよさを小学6年生にわかりやすくまとめて表現することができる。

自分自身に関すること

課題解決に向けて見通しをもって取り組むことを通して、学校への誇りと愛着を深め、最上級生としての自覚を持って生活することができる。

他者や社会とのかかわりに関すること

課題解決に向けて友達と協力し合い、地域の方や卒業生の思いを知ることによって、積極的に地域の活動に参加しようとする。

- ・ 「職場体験」では、働くことの意義や責任について考え、学校生活を見直し、進んで行動できるようにしたい。

学習方法に関すること

身の回りの職業に関心を持ち、情報収集活動を行い、情報を分析し、職場体験での経験や感じたことを相手にわかるように伝えることができる。

自分自身に関すること

自分の将来の職業を考え、そのために必要なことに気づき、取り組もうとする。

他者や社会とのかかわりに関すること

自分の将来を考えるために、調査結果や友だちの意見を参考にするとともに、自己の将来の目標に向けて、行動したり、積極的に地域の活動に参加したりしようとする。

(2) 中心となる活動を探究的な学習のどこに位置づけるかを明確にする

- ・ 「小中交流会」を特別活動の行事として、この行事を<まとめ・表現>の段階と位置づける。
- ・ 「職場体験」を<資料・収集>の段階と捉え、資料・収集したものを<整理・分析>し、まとめていく。

(3) 探究的な学習がスパイラルになるような計画にする

生徒の主体性を重視し、探究的な学習が繰り返せる計画を考えることとした。

- ・ DVDや実際に働いている地域の方からの話を聞くことを通して、働くということについてまとめ、職場体験での課題をつかむ。実際の職場体験から、働くことの意味や働くことにとって大切なことに気づき、そこから自分たちの生活を振り返って生活上の課題を設定し、実践するという流れを考えた。
- ・ 小中交流会では、伝える内容をどのようなものにするかを課題としてアンケート等の調査を行い、内容について分析する。また、学校のよさについて調査し、それらをどのようにプレゼンしていくかを課題として、グループごとに考える。

IV 実践例

実践例 ① 2年生

1 単元名 「向陽中学校のよさを再発見し伝えよう」

2 単元目標

- (1) 学校のよさを知ることで、愛校心を深めるとともに、自らの学校生活を振り返り小学生の興味・関心に応えることを通して、最上級生になるという自覚を高めるとともに所属感を味わうことができる。
- (2) 生徒同士が協力して、4ヶ月後に入学してくる小学生のことを考えた内容や発表の仕方、方法を考え、学校のよさを積極的に発信することができる。
- (3) 情報や分析の重要性に気づき、自分の進路選択に役立てることができる。

3 生徒の実態

本校は昭和46年に創立し現在19学級の規模である。駅から徒歩15分の新興住宅街に位置し核家族が大半をしめる。学習に対する意欲も高く授業に真剣に取り組む生徒が多い。その一方で、自主的に学習に取り組んだり、自分の意見として発言したりすることを控える傾向が見られる。

本学年は、1年次に「川越めぐり」や「社会体験学習」、2年次前期では「奥秩父探訪—秩父学と野外活動の基本のき—」という単元で特別活動と関連づけて取り組んできた。総合的な学習の時間については、①課題を主体的に持つことができない、②意欲的に活動する生徒と興味関心が低い生徒との差が大きいという実態がある。

2年生も後半になり、最上級生を意識した行動や態度が求められる時期になってきたが、目標がまだ明確に持てず、悩んでいる生徒も見られる。

4 教材について

本単元は平成16年度当センターの研究「確かな学力の育成を目指す幼稚園（保育園）・小学校・中学校の交流・連携」を目的に本校は国語科を中心に「話すこと・聞くこと」の学習として取り組まれた。平成18年度からは学校全体で取り組んでいくという方針から「総合的な学習の時間」に位置づけ実践し本年度で4年目となる。探究的な学習を一層充実させるために、「小学生が知りたいこと」をアンケート調査し、内容を分析することからはじめる。さらに自分たちの中学校のよさについて調査を進めることで、より意欲的な生徒の活動を促したい。

「中学校を中学生が小学生に説明する」活動の趣旨として次のようなことが挙げられる。小学校6年生にとって中学校への進学は大きなハードルとなる。中1ギャップなどといわれるように、小学校と中学校の間にある壁により、学校不適應や不登校が増えているという問題もある。しかし、心身ともに大きく変化・成長するこの時期は、子ども達にとって大きく飛躍する機会ともなる。したがって、スムーズな進学を促す取り組みが必要である。また、中学生にとって自校を紹介する活動は、その学習過程において自分の学校の良さとともに自分の良さを見つけ、認めるよい機会となる。さらに、自分が見つけたよさを小学生に伝えることは中学生自身の大きな自信となる。

実施に当たり小学校では総合的な学習の時間に自己の生き方を追求する活動の一つとし

て設定し、中学校では6年生が入学時に最上級生となる2年生の活動に位置づけた。中学2年生にとっては、最上級生となるうえで、自分自身を見つめ直し、進路決定をしていく過程で情報を収集し整理していく必要性がでてくる。一人一人が、この教材を通して自分たちのよさや可能性に気付くとともに、発信したことが「相手の立場」にたって伝達されたか、また今後、自分が必要としている情報をどのように得ることができるかについて考える力をつけてほしい。

5単元の展開

(1) 指導計画

月	学習の流れ	学習内容・学習活動	時	活動形態(場所)	◎教師の支援・指導上の留意点						
9	課題の設定	○オリエンテーション	1	全体学習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の内容説明では自分の進路学習になることを伝え新たな意識を高める。 ・小学生の立場にたって考えさせる。 ・アンケートをもとに小学生の中学入学への疑問を理解しどのようなことを説明するか考えさせる。 ・小学生の疑問点を整理し、テーマとフィールドを決める。 ◎向陽中学校のよさについて気づくようにする。						
10		○アンケートの内容検討	2	学級全体							
		○アンケート集計分析	2	学級(班活動)							
11											
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">学習・生活</td> <td style="text-align: center;">部活動・行事</td> <td style="text-align: center;">向陽中の特色 歴史・伝統</td> </tr> <tr> <td>時間割・教科・試験 選択教科・1日の生活決まり ・3大マナー</td> <td>部活動の種類と目的 校外活動・三送会・ 校外学習・学年行事・等</td> <td>有志合唱・朝読書・ひまわりの花・古紙リサイクル・ボランティア活動・施設・校章・校歌、等</td> </tr> </table>				学習・生活	部活動・行事	向陽中の特色 歴史・伝統	時間割・教科・試験 選択教科・1日の生活決まり ・3大マナー	部活動の種類と目的 校外活動・三送会・ 校外学習・学年行事・等	有志合唱・朝読書・ひまわりの花・古紙リサイクル・ボランティア活動・施設・校章・校歌、等
学習・生活	部活動・行事	向陽中の特色 歴史・伝統									
時間割・教科・試験 選択教科・1日の生活決まり ・3大マナー	部活動の種類と目的 校外活動・三送会・ 校外学習・学年行事・等	有志合唱・朝読書・ひまわりの花・古紙リサイクル・ボランティア活動・施設・校章・校歌、等									
		○フィールドとテーマの分担	1	学級	・班で話し合わせる。						
		○プレゼン方法の検討	1	学級(班活動)	・生徒の発表内容に適した発表方法を決定させる。						
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> ・コンピュータ ・紙しばい ・ポスターセッション ・ロールプレイング 等 </td> </tr> </table>				・コンピュータ ・紙しばい ・ポスターセッション ・ロールプレイング 等					
・コンピュータ ・紙しばい ・ポスターセッション ・ロールプレイング 等											

	情報の収集	○プレゼン資料収集	3	学級	◎図書室から「本校の歴史」の準備、 学校生活の写真を生徒が選択しやすいようにテーマ別に準備をする。 ・取材が必要な場合には事前に希望者を確認する。 ・多面的、多角的な視点で分析できるよう支援する。
12	整理・分析	○プレゼン資料作成	4	学級	・情報を比較分類、関連付ける活動に取り組み思考の場面を設定する。 ◎作成場所を教室、PC室等に振り分け材料や道具を準備する。 ・発表方法、話し方・伝え方の工夫をさせる。 ・発表方法、話し方・伝え方の工夫をさせる。 ・学び方・考え方の共有化を図る。 ・発表方法、話し方・伝え方についての課題をつかませ、さらに工夫させる。
		○プレゼン原稿作成	2	学級	
		○プレゼン練習	1	学級	
		○リハーサル（本時）	2	学年	
1	まとめ・表現	ビデオ撮影			<特別活動> ・撮影編集は彩の国ビジュアルプラザの協力による。
	振り返り	○プレゼン自己評価 (撮影したビデオを見る)	1	学級	・互いの研究を評価し合う場を設定する。
2	振り返り	○アンケートの作成	1	学級	・自分たちが発信したことがどのように受け入れられたか自己評価、相互評価を振り返ってアンケートを作成する。
		○アンケートの集約	1 1	学級（班活動）	・アンケートを分析して課題解決に主体的に取り組み他者のよさを自覚できるようにする。
		○レポート作成 ○レポート完成	3	個人学習	・進路学習と関連させ自分の考えを再構築するとともに自己の生き方を考えることができるようにする。

(2) 授業展開

- ①本時の目標 リハーサルを通して、よりよいプレゼンの改善点に気づくことができる。
- ②評価
 - ・級友のプレゼンを聞きよさや改善点に気づくことができたか。
 - ・改善点に気づき自分のプレゼンに生かそうとすることができる。

③本時の展開

時間	学習の内容	指導上の留意点												
5 1 40 5	<p style="text-align: center;">リハーサルでプレゼンの展開を確認しよう</p> <p>1 発表の順番を確認する 2 相互評価の記入方法</p> <p>3 発表 ・自己評価記入</p>	<p>1 ①学習・生活2班 ②部活・行事2班 ③歴史・伝統2班</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">班ごとに黒板脇に でて待機</p> <p>2 「相互評価表」の記入方法を説明する。 3 担任は計時・移動指示・資料セッティングの補助をする。</p>												
つかむ ふれる 2 深める まとめ	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p style="text-align: center;">プレゼンを振り返り自分の改善点を見つけよう</p> <p style="text-align: center;">プレゼンを振り返り「プレゼン」のことについて考えてみよう</p> <p>どのようなプレゼンがよかったか 印象に残るプレゼンはどんなことが 必要か 考えてみよう</p> <p style="text-align: center;">相互評価表からプレゼンで大切なことを考えよう</p> <p>1 班ごとにクラスの発表について ワークシートにまとめる。 2 班ごとに出た意見を発表する。 〈板書例〉</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">話し</td> <td style="width: 33%;">資料</td> <td style="width: 33%;">内容</td> </tr> <tr> <td>かった点・改善点</td> <td>よかった点・改善点</td> <td>よかった点・改善点</td> </tr> </table>	話し	資料	内容	かった点・改善点	よかった点・改善点	よかった点・改善点	<p>話し手 資料 内容 ごとに相互評価をもとによかった点と改善点を話し合う。</p> <p>・3つの項目のポイント</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">話し手</td> <td>表情・音量・速さ・視線・姿勢・抑揚</td> </tr> <tr> <td>資料</td> <td>見やすさ・要点のまとめ方・提示の仕方</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>わかりやすさ・やりがいや達成感の伝達</td> </tr> </table> <p>・生徒の意見を項目ごとに板書しそれぞれのポイントに気づかせる。 ・相手の立場（小学生が中学校を知る）を第一に、わかりやすく、目標がもてるような内容で発表時間を有効に活用させる。</p> <p style="text-align: center;">自分のプレゼンの改善点を見つけよう</p> <p>ワークシートに自分の改善点をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で準備を整えておく。 ・資料の工夫、発表方法の工夫、原稿の見直しをポイントにする。 	話し手	表情・音量・速さ・視線・姿勢・抑揚	資料	見やすさ・要点のまとめ方・提示の仕方	内容	わかりやすさ・やりがいや達成感の伝達
話し	資料	内容												
かった点・改善点	よかった点・改善点	よかった点・改善点												
話し手	表情・音量・速さ・視線・姿勢・抑揚													
資料	見やすさ・要点のまとめ方・提示の仕方													
内容	わかりやすさ・やりがいや達成感の伝達													
	<p>・自己評価記入 ・次回の予定</p>	<p>ワークシート提出させる。 クラスごとにビデオ撮影することを伝える。</p>												

成果と課題

- ・ 小学生へのアンケートを分析することにより、プレゼンの内容について真剣に取り組む姿が見られた。学校のよさについての調査も積極的に行うことができた。
- ・ 「話し手」「資料」「内容」ともに生徒たちからは大切なポイントが体感できた。しかし実際、自分がプレゼンを行うには自分たちの考えた理想に近づいていないことにも気づいている。それは級友のプレゼンによく耳を傾けている様子からも伝わってきた。このことから今回のリハーサルと相互評価はおおむね学習目標を達成できたと考える。
- ・ 課題を生徒主体で自主的に設定するためには、体験や調査から考えるゆとりをもった計画が必要となるが、十分ではなかった。
- ・ 本單元では、この後ビデオを小学生に視聴してもらいアンケートを取り、新たな資料収集をして課題を設定する。今回の取り組みを通して、残り1年の中学校生活を、愛校心を持ち最上級生としてどのように充実させるか、また自分の進路選択をしていく過程で自ら進路を切り拓く力をもって上級学校の「情報収集」や分析に当たる「見極め」に役立たせることを期待したい。
- ・ より深く課題を追求していく「探究心」を養うためには動機づけが重要になってくるので、探究的学習を繰り返すことが重要になってくる。指導計画に銘記していく必要がある。

IV実践例

1 単元名

自分の生き方を考えよう。～職場体験～

2 単元目標

- ①体験活動を通して働くことの意義を考え、社会人としての責任の重さ・働くことの大変さと意義についての自覚を深める。
- ②自己を理解し、望ましい職業観や将来の夢を育む。
- ③地域の中の様々な社会体験活動を通して、新たな人との出会いや社会のルールやマナーを学ぶ。
- ④地域で活動することにより、より一層地域理解を深める。

3 生徒の実態

本学級の生徒は明るく素直で男女の仲も良い。体育祭や合唱コンクールなどの行事においても、団結し声を掛け合ったり、アイデアを出し合いながら前向きに取り組むことができる。その一方で学級内の係の仕事や当番活動では、人任せになってしまう場面も多く見られ、進んで働こうとする意欲や態度に欠ける生徒も見られる。

職業に関しては、「将来の夢がない」と答える生徒も多い。小学生の頃は難しく考えずに、素直になりたい職業を口にしていた生徒でも、中学生になると自分の能力や適性を考え、現実との間で揺れ動く時期であることが理由の一つに考えられる。また、中学校1年生という時期は進路選択を迫られるまでには時間に余裕があり、働くことや職業に関して実感や興味関心が薄いとも言える。

4 教材について

総合的な学習の時間においては、体験活動を行うことを重視し、積極的に学習活動に取り入れることとしている。また、目標の中には、「自己の生き方が考えられるようにすること」とあり、職業や将来にかかわる課題は、義務教育の最終段階にある生徒にとって、切実かつ現実的な課題である。職場体験は、実際に仕事をする人と接し、自分自身も体験することで、望ましい職業観をはぐくむまたとない機会であると考えられる。

核家族が増え、異世代との交流が減少している中、あいさつができない、言葉遣いを知らない、コミュニケーションがうまく図れない生徒が多いと指摘があるが、職場体験は社会的スキルを身につけ、人間関係の大切さを知ることができる有意義な体験活動である。本校では、職場体験の事前学習として「おやじの会」等保護者の方に講義をして頂き、実際に働く人から社会人としてのマナーや心構えを学ぶ機会を設けている。

また、体験活動がそれだけで終わるのではなく、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動を行い、一層充実したものにしていきたい。具体的には、体験活動後にグループで働くことの意義を考え、まとめる等の活動を取り入れる。学習に当たっては、自分の考えをまとめる活動を計画的に取り入れることで、言語活動の充実を図りたいと考える。

5 単元の展開

月	学習の流れ	学習内容・学習活動	時	活動形態	教師の支援・指導上の留意点
8	課題の設定	○身近な働く人にインタビュー		夏休みの課題 (個人)	
9		○「なぜ今、学ぶのか」 進路冊子を基に考える。	1	学級/グループ	・現在の学習と将来の職業生活との関係を理解し、目的意識を持たせる。
		○「人間ドキュメント・14歳職場体験を通して」 DVD視聴とワークシート	1	学年/個人	・職場体験のイメージを持たせる。
		○「働くこと」…職場について進路冊子を基に考える。	1	学級/グループ	・様々な職種や職場について知識を広げ、関心を持たせ、疑問点や感想などをまとめ、課題作りに生かすようにする。
		○社会体験の目的と意義について 事業所希望調査	1	学年集会	・職場体験を通し、課題を追求するための方法を見つけさせる。
10		○事業所割り振り発表 事前打ち合わせの説明	1	学年集会	・事業所との電話対応や、マナーについて考えさせる。
		○事業所別に会議 アポ取り	1	事業所ごと	
		○職場体験の心得 (おやじの会の方・講義)	1	学 級	
		○事業所へ事前訪問 打ち合わせ	放課後	事業所ごと	・今までの学習や講演をもとに働くことに対して、関心があることをまとめ、調べたいことを確認する。
11			○職場体験にあたって確認	1	学 級
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">この3日間の体験でまとめてくること</p> <p>A, 3日間でできるようになったこと。 B, 社会におけるマナーの大切さを感じたのはどんなときか。 C, 苦労したこと。 D, 事業所の方から特に注意するように言われたこと。 E, この職業に必要な資質(資格・適性など) F, 3日間の体験を通して「働く」上で必要・大切だと思ったこと。 G, 学校生活と一番違ったこと。 H, 3日間の感想。</p> </div>					
	情報の収集	○職場体験(3日間)		事業所ごと	
	整理・分析	○体験の記録の整理・まとめ 上のA~Hについて班でまとめ、 分析資料を作成する。	1	学級/グループ	・班で協力しながら話し合い活動や、わかりやすい資料作りができるよう声かけをする。
	まとめ・表現	○「働く」ことについての 話し合い・まとめ (本時)	1	学級/グループ	・これまでに制作した資料を活用しながら話し合い活動がスムーズに進むようにする。
	ふりかえり	○お世話になった事業所へ 礼状書き	1	事業所ごと 個人	・具体的な内容で、生徒の働くことへの思いが入るよう、声かけをしながら支援する。

6 本時の展開

- ①本時の目標 職場体験で学んだことを整理し、「働くこと」の意義について考えることができる。
 ②評価 ・資料や話し合いをもとに「働くこと」について、自分なりの考えをまとめることができたか。

	学 習 活 動	指導上の留意点・支援
つかむ (10分)	<p>今日は職場体験をふり返り、「働く」ことについて考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業でまとめた資料を見て、それぞれの項目について、再度目を通す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に生徒がまとめた資料を教室内に掲示しておき、ふり返ることができるようにしておく。
ふれる (15分)	<p>Q1、職場体験に行ったときの働いている人の様子・表情を思い出してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★楽しそう・嬉しそう表情だったのは、何をしているとき（どんな場面）だったか。 ★苦労している・辛そうな表情だったのは、何をしているとき（どんな場面）だったか。 ・個人で考え、ワークシートに記入、発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をし、働いている人の姿が思い出せるよう、声をかけ、支援する。 ・生徒同士で様々な職場の様子を知ることができるよう、多くの職場で発表させる。 ・仕事は楽しいことばかりではなく、つらいこともあることに気づかせる。
深める (15分)	<p>Q2、働く上で大事なこと（前回まとめた資料から）について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やる気・礼儀・マナー・気配り・言葉遣い ・資格など ・誰に対して大事なのか？ ・どうして必要なのか？など。 <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんに気持ちよく買い物をしてもらうため（お店の売り上げにつながる） ・職場でチームワーク良く仕事をするため <p>班で話し合い、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自由に意見を出せるよう、どんな考えも受け入れ、発表しやすい雰囲気をつくる。 ・生徒同士がきちんと意見を聞き合い、共感したり、自分の考えが持てるようにする。 ・身近な学校生活や学級内にもつながること（あいさつ・マナー・気配りなど）に気づかせ、学校での学習が社会で大切なことを理解させる。
まとめる (10分)	<p>Q3、楽しいことばかりではない仕事。では、なぜ（何のために）人は働くのかな？</p> <p>班で話し合い、発表する。</p> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金のため・やりがい・人の役に立ちたい <p>働くことについてまとめてみよう。</p> <p>個人で考え、まとめ、発表する。 ワークシート記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各班を回り、全員が話し合い活動に参加し、スムーズに進められるよう声かけをする。 ・実際に体験してきたことや、今までまとめた資料を基に考えるようにする。 ・お金のためだけではなく、やりがいや人の役に立つ等の前向きな気持ちに気づかせる。 ・考えがなかなか書けない生徒には、声かけをし、支援する。 ・生徒が自由に意見を出せるよう、どんな考えも受け入れ、発表しやすい雰囲気をつくる。 ・生徒同士が、きちんと意見を聞き合えるよう声かけをする。

成果と課題

- ・ 職場体験を通して、あいさつの大切さを学び、学校生活でも授業の開始時と終了時のあいさつが以前よりも大きな声でできるようになった。また、係活動や給食・清掃などの当番活動に置おいても、以前より進んで取り組める生徒が増えた。
- ・ インフルエンザ流行による学級閉鎖で事前学習が十分に行えなかったため、短時間でも職場体験における生徒の意識が高まるような事前授業の工夫が必要であると感じた。
- ・ 生徒が自分の希望通りの職場になかなか行かれないのが現状である。「働く」意義を探求すること、社会人としてのマナーを学ぶことが目的であれば、始めから希望調査は取らないで実施する方法が良いのではないかと考える。(自分のつきたい職業体験ではないため) また、親子で受け入れ先の事業所を探す方法もあり、学校で決めてしまうよりも生徒は希望通りの仕事ができたり、職場体験を通して親子の会話が増え、仕事についての考えが深まったりするなどとてもよい取り組みだとの声もある。

V 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- 総合的な学習の時間を充実させるため、探究的な学習計画を作成し実践した結果、生徒の学習に対する姿勢が意欲的になった。また、学習後の行動や態度にも影響があるということがわかった。
- 探究的な学習の過程を繰り返す学習を行うことで、生徒の主体性が増し、活動に真剣さが見られた。このことから、探究的な学習の重要性が理解できる。
- 目指す生徒像を明確にしたことで、生徒の学習状況に応じて適切な指導をすることができた。また、評価にも役立てることができた。
- クラスを単位とした学習を多く取り入れ、協同的な学習を意識したことで、学級の意識が高まり、学級の間関係にもよい影響が出ていた。
- 研究員での取り組みを機に、来年度の総合的な学習の時間の指導計画改善の手立てを見つけることができた。

(2) 今後の課題

- 探究的な学習を行うためには、教師が互いに相談し合い、計画を工夫改善していくことが不可欠である。教師間の協力体制を整えていく必要がある。
- 学年全体で一斉に計画されていることが多いが、学級単位で行うことも有効であることから、今後の計画に取り入れていけるとよいのではないかと考える。